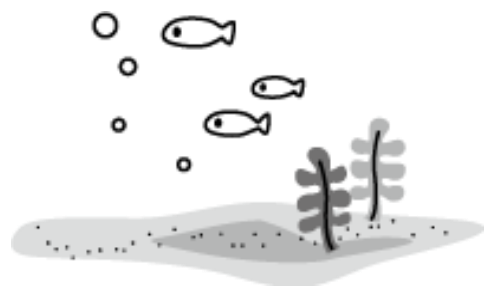


# 宮崎県水産職

～海を相手に仕事がしたい～



01

OFFICE  
水産職の職場こんな  
仕事場です

## 1 水産政策課



本庁（宮崎市）にある部署で、流通対策、金融対策、沿岸漁業や養殖の振興、担い手対策などの業務を行うほか、政策の企画・立案など、水産政策の中心を担っている部署

〒880-8501

宮崎市橘通東1丁目10番1号



## 2 漁業管理課



本庁（宮崎市）にある部署で、漁業許可や漁船登録などの許認可、漁業違反の取締、資源管理対策、漁港施設の維持・管理などの業務を行っています。

〒880-8501

宮崎市橘通東1丁目10番1号



## 3 漁業管理課 漁港漁場整備室



漁業管理課内にある部署で、漁港や魚礁などの公共施設の整備を主体として、漁業協同組合が行う荷さばき施設などの整備に対する補助事業を行っています。

〒880-8501

宮崎市橘通東1丁目10番1号



## 4 水産試験場



宮崎市青島にある公設試験研究機関で、漁海況や資源及び経営の解析や分析、水産物加工や増養殖の技術開発などの試験研究を行っています。

〒889-2162

宮崎市青島6丁目16-3



## 5 水産試験場 内水面支場



小林市にある水産試験場の支場で、内水面の試験研究機関です。河川環境のモニタリングやチョウザメの増養殖技術の開発などを行っています。

〒886-0005

小林市南西方出の山1091

## 6 東臼杵農林振興局 水産係



出先機関である東臼杵農林振興局内にある部署で、水産業普及業務を主体として、漁業者との交流が多い部署です。延岡市から日向市までを管轄区域としています。

〒882-0872

延岡市愛宕町2-15



## 7 南那珂農林振興局 水産係



出先機関である南那珂農林振興局内にある部署で、水産業改良普及業務を主体として、漁業者との交流が多い部署です。日南市から串間市までを管轄区域としています。

〒887-0031

日南市戸高1-12-1



## 8 児湯農林振興局 農政推進担当



水産業改良普及業務を主体として、都農町から新富までを管轄区域としています。

担当職員は、水産政策課担い手・普及担当の職員が兼務をしています。

〒880-0002

児湯郡高鍋町大字北高鍋3870-1

9

## 中部農林振興局 農政推進担当



水産業改良普及業務を主体として、宮崎市を管轄区域としています。

担当職員は、水産政策課担い手・普及担当の職員が業務をしています。

〒880-0805

宮崎市橘通東1-9-10

10

## 県立高等水産研修所



本県水産業を担う人材を育成する部署で、日南市にあります。幅広い視野と高度な技術・知識を備えた中核的漁業者の養成に取り組む全国でも数少ない専門機関です。

〒887-0002

日南市西町2-11-6



02

# MISSION 水産職の業務

こんな  
お仕事です

ここに掲載してあるものは水産職の業務の一部で、これ以外にも、水産業改良普及事業、各種補助事業、海外輸出対策などの業務があります。詳しくは、宮崎県庁ホームページの水産政策課のページに新着情報として、「宮崎県水産白書」を掲載しているので参考にしてください。



## を管理し、創造する！

### 資源管理の推進

マダイやヒラメなどの有用魚種について、毎年、資源状況を分析し、その結果に基づく管理措置を講じ、併せて人工種苗の放流などを実施しています。

また、水産資源の生育環境として重要な藻場・干潟について、漁業者等との協業による保全活動を推進しています。

〈写真〉人工種苗生産したアマダイの放流



### 漁業の免許・許可と漁業取締

海面の総合的な活用を図るため、共同漁業や養殖及び定置漁業を営むための漁業権の設定や管理を行うとともに、持続的な水産資源の利用を図るため、漁業許可制度の運用を行っています。

また、これらの制度を適切に運用するため、密漁などの漁業違反に対する取締りを行っています。

〈写真〉漁業取締船「たかちほ」(60トン)

(\*) 船舶職員は、別途「船員」として採用されます。



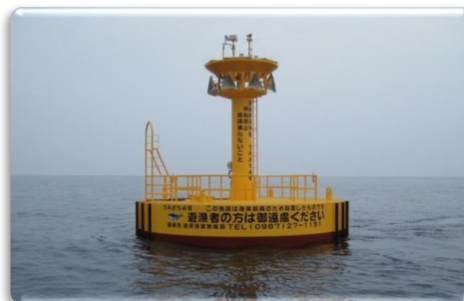
### 漁場の整備

宮崎の沿岸地形は単調で天然礁が少ないため、カツオなどの回遊性魚類の滞留性が欠けるといふ欠点があります。そこで、漁獲機会の増大を図るため、魚礁などの人工構造物による漁場の整備を行っています。

また、魚類の稚魚の生息場となる極浅海域においては、稚魚を外敵から守るための増殖場の整備を行っています。

〈写真〉日向灘に設置した表層型浮魚礁

(\*) カツオやマグロが集まります。





## と語り、人を創る！

### 担い手の育成

本県では、優れた担い手を確保するため、昭和13年に漁村道場宮崎県水産講習所を設置しました。その後、施設の再整備等を行い、現在は県立高等水産研修所と名称を変更しています。

研修所では、中学又は高校卒業者などを対象として、時代の要請に対応できる行動な知識と技術を備えた漁業就業者の育成を行っています。

〈写真〉県立高等水産研修所の授業風景



### 担い手の確保

近年の少子高齢化に伴い、どの産業も人材が不足しています。本県漁業就業者についても同様に、平成に入ってから減少が顕著となっています。特に、個人経営体の漁業者の減少が著しく、喫緊の課題となっています。

このため、県と水産団体では、担い手の確保対策の中核機関として、公益社団法人 宮崎県漁村活性化推進機構を設立し、就業希望者に対する相談や研修を行うほか、関係者との担い手対策に係る話し合いなどを促進しています。

〈写真〉都市圏で行われる漁業就業者フェアでの説明状況



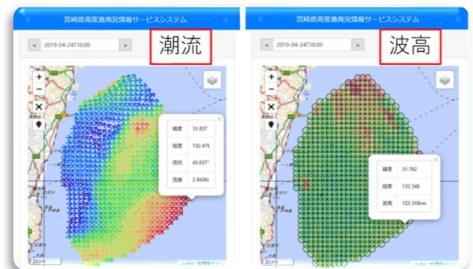
## を磨き、未来を切り拓く！

### 水産試験場での試験研究及び技術開発

#### 資源部

- 水産資源の評価・管理技術の開発
- 水産資源の変動に影響する海洋環境の研究
- 海況情報の提供システムの開発

〈写真〉海洋レーダーによる潮流情報例

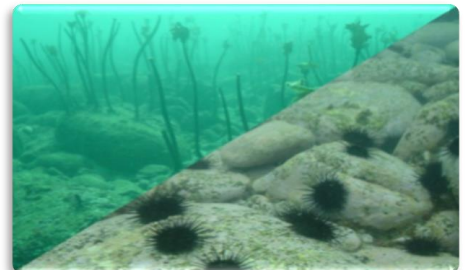


#### 増養殖部

- 藻場回復のための環境改善技術の研究
- 養殖生産効率化に係る技術開発
- 養殖魚の防疫技術の開発や巡回指導

〈写真〉ウニによる藻場の食害状況

(左) 魚の食害による磯焼け (右) ウニによる磯焼け



#### 経営流通部

- 経営分析による高収益漁業の研究
- 漁場予測技術の開発
- 水産物加工品の開発
- カツオなどの高度回遊性魚類の調査

〈写真〉漁業調査取締船「みやざき丸」(199トン)

(\*) 船舶職員は、別途「船員」として採用されます。



03

INTRODUCTION  
職員紹介こんな  
職員もいます**山** 田 和也 Kazuya Yamada

## スマート漁業の伝道師！



■入庁 平成17年  
 ■経歴（年度）  
 平成17～18 営農支援課  
 平成19～21 公社等派遣  
 平成22～23 水産試験場  
 平成24～27 水試内水面  
 平成28～31 水産政策課  
 令和2～ 水産試験場

平成17年度に宮崎県庁に入庁し、本庁や出先を経て、令和2年度から水産試験場の資源部に着任し、海洋環境と漁獲の関係を解析する研究を担当しています。

本県においては、従来より沖合の浮魚礁に設置した観測機器から水温等の海象データが提供されてきましたが、平成31年度に海洋レーダーにより観測された情報を元に、潮流の流向、流速、波浪情報を可視化し、リアルタイムで提供するシステムを開発しています。

これらのシステム管理はもとより、情報や過去の観測データを駆使し、漁獲量との関係性の解析に鋭意取り組んでおり、漁業の更なるスマート化の実現は、彼の手には掛かっています。

**藤** 田 裕也 Yuya Fujita

## 種苗生産のパイオニア！



■入庁 平成30年度  
 ■経歴（年度）  
 平成30～令和元 水産政策課  
 令和2～ 水産試験場

平成30年度に宮崎県庁に入庁し、行政部門を経て水産試験場の増養殖部に配属。水産試験場では、もともとの専門である海洋学の知識を活かしながら、赤潮・貝毒対策を担当。科学的知識に裏打ちされた適確な指導を漁業者へ行うことで、本県赤潮対策の司令塔としての存在感を放っています。また種苗生産担当として、シラスウナギ種苗生産試験、遺伝育種及びアマダイ類親魚養成を担当し、本県初となる人工シラスウナギの生産に取り組むなど種苗生産の分野でもめきめきと頭角を現し、いまや水産試験場の中核的存在となりました。入庁5年目のナイスガイ。自身の持つ専門性を活かしながら、今後もいろいろな職場での更なる活躍が期待されます。

**濱** 田 美砂 Misa Hamada

## 水産加工のエリアマネージャー！



■入庁 平成28年度  
 ■経歴（年度）  
 平成28～29 漁村振興課  
 平成30～令和2 東臼杵農林  
 令和3～ 水産試験場

平成28年度に宮崎県庁に入庁し、行政部門を経て水産試験場経営流通部に着任し、加工流通に係る研究を担当。

近年需要が高くなっている水産物常温加工品の技術開発や機能性成分の分析・活用技術の開発を行っています。

また、県内の水産加工業者から寄せられる様々な問い合わせに対し、電話での対応や、水産試験場内にある水産物加工指導センターで対面の技術指導を行い、加工業者の信頼を得ています。入庁7年目の中堅職員として今後もいろいろな職場でのさらなる活躍が期待されます。

**松** 井 翔 Shou Matsui

## かつお・まぐろ漁場の指南師！



■入庁 平成25年度  
 ■経歴（年度）  
 平成25～27 東臼杵農林  
 平成28 水産政策課  
 （宮城県派遣）  
 平成29～31 水産政策課  
 令和2～ 水産試験場

平成25年度に宮崎県庁に入庁。行政部門を経て、令和2年度より水産試験場経営流通部に所属し、かつお・まぐろ漁業の収益性向上に関する研究や調査船みやざき丸の運行を担当。

みやざき丸は令和4年度中に新船が就航予定となっており、現在建造を進めるとともに、新船就航後に行う新たな操業支援技術の開発やクロマグロ稚魚調査の検討を行っているところです。新しい調査船の就航とともに、さらなる飛翔が期待されます。

04

## WORKING CONDITIONS 勤務・休暇など

勤務  
時間は？

月曜日～金曜日  
午前 8 時30分～午後 5 時15分  
(休憩時間を除く週38時間45分)

休暇は？

年次休暇は、  
入庁した年は15日/年  
それ以降は20日/年  
(その他の特別休暇) 夏季休暇、結  
婚休暇、出産休暇、育児休暇など

### MESSAGE

## 宮崎県水産職の受験を考えている人へ

### 若手職員 池原 悠太 Yuta Ikehara



#### ■ 仕事のやりがいについて

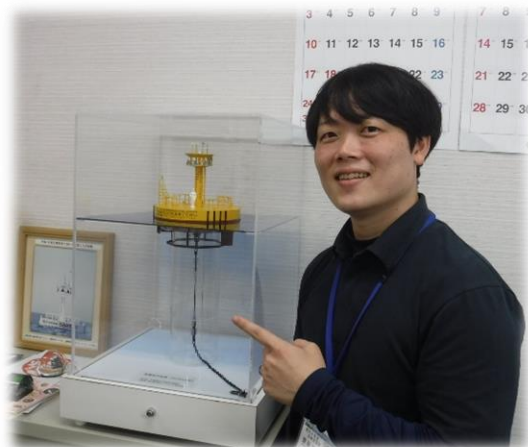
令和4年度から県庁に入庁し、東臼杵農林振興局で水産業の普及指導員として、現場で漁業者と一緒にいる普及活動や漁船に関する事務作業まで幅広い業務を行っています。まだまだ業務経験は少ないですが、漁業経営改善のための新たな取組を支援するなど、自分の仕事が少しでも漁師さんの笑顔が増えることにつながればと思っています。

#### ■ 県庁の受験を考えている方へ

県庁の受験を考えている皆さんは、大学で専攻した知識やスキルを生かせる仕事をしたいと考えていると思います。実際に入庁してみて、県庁の水産職には専門の知識とスキル、そして人のために動ける行動力が求められていて、皆さんの思いを十分に生かすことができる職種だと思います。是非、県庁に入庁し、一緒に宮崎県の水産業をより良いものにしていきましょう。

所属 (R4) 東臼杵農林振興局 水産担当  
入 庁 令和4年度

### 中堅職員 齋藤 友則 Tomonori Saitou



#### ■ 仕事のやりがいについて

私たち県庁の水産職員は、県の水産業の振興のための仕事をしています。私の業務を通して、漁業者の喜ぶ顔が見られた時や活動が評価されたときに、やりがいを感じます。また県職員は数年おきに配属が変わりますが、前の所属で得た知識や人脈が、次、その次の所属で活かせることもあります。そのような時は、自分が積み上げてきた業務や自身の成長を感じることができ、これからの業務へのモチベーションになります。

#### ■ 県庁の受験を考えている方へ

大学や大学院で学んだ水産に関する専門知識を活かせる職業は多くありませんが、県庁の水産職は大学で学んだ専門知識を思いっきり発揮することができます。また、入庁後も様々な角度から水産業を見ながら、新しい知識や体験に出会うことができます。宮崎の水産を盛り上げたい方はもちろん、これまでの学びを活かしたい方、水産に関して新しい発見がしたい方など、水産が好きな皆さんと一緒に仕事ができるのを楽しみにしています。

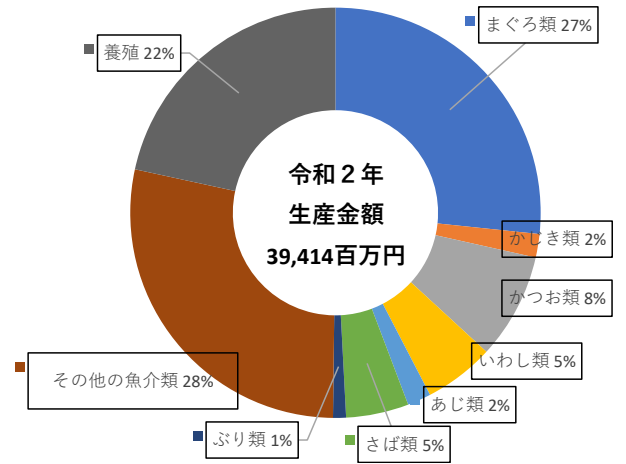
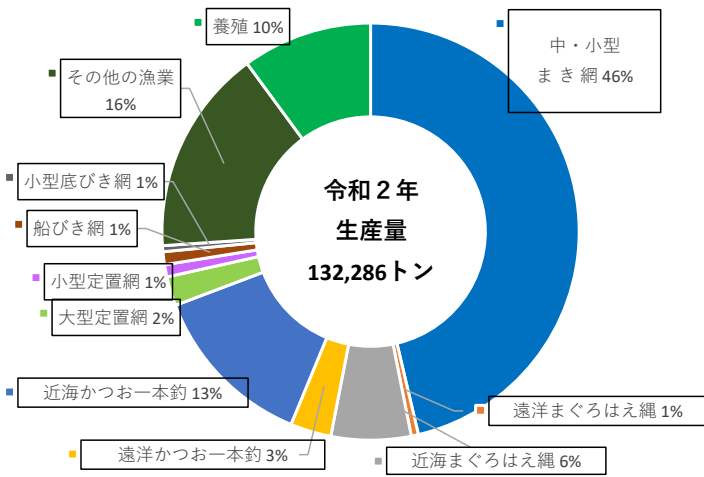
所属 (R4) 漁業管理課 漁場担当  
入 庁 平成25年度

# REFERENCE

## 宮崎の漁業の概要

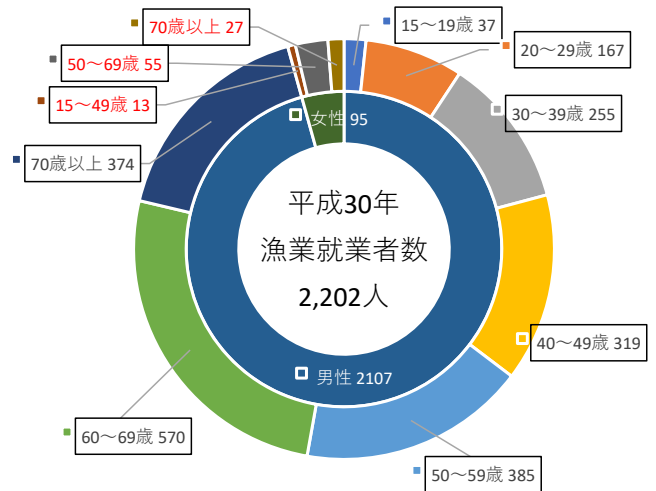
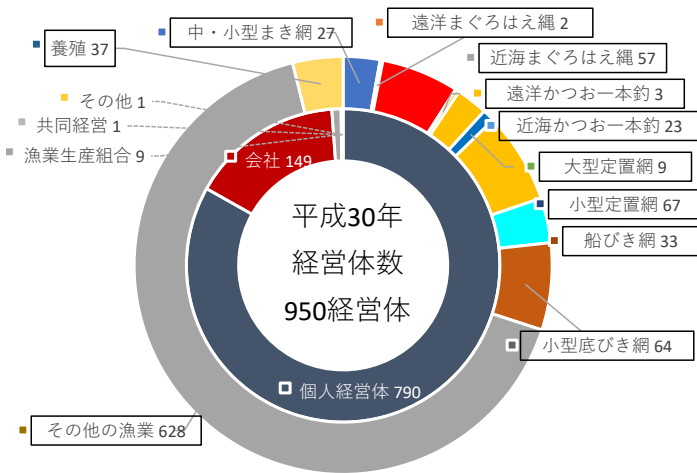
宮崎県の漁業種類別生産量

宮崎県の魚種別生産金額



宮崎県の漁業経営体数

宮崎県の漁業就業者数





---

〈問合せ先〉 **宮崎県庁 農政水産部 水産政策課**

〒880-8501

宮崎市橘通東2丁目10番1号

TEL

0985-26-7145

E-Mail

[suisanseisaku@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:suisanseisaku@pref.miyazaki.lg.jp)